

## ヴァイオリニスト TAIRIKU の戯言

〔 第5回 〕

## 『弦が揺れると、僕は季節の風になる』

+ 文 佐田大陸 Text by Tairiku Sada +

「心の声は」

ヴァイオリンや、楽器を演奏されている方から質問されることがよくあります。一日何時間練習しますか？使っている弦の種類はなんですか？どういう状況で作曲をしていますか？その中で僕自身「あ、自分の中の正解ってなんだろう」と考えた質問がありました。それは「演奏中何を考えていますか？」という質問。

学生時代、僕も気になって色んな人に聞いてみた事がありました。答は人それぞれでした。その中で、男で意外と多いのが「常に好きな女の子の事を考えながら弾いてる」という人。まさにその考え方を保有している、とある演奏家の話です。

失恋した次の日にソリストとしてオーケストラとの共演が控えておりました（誰とは言いませんが）。僕はまたまた彼が失恋したその現場に居合わせたのですが、おそらくその子と色んな想いが吹き出したのでしょう。

「あ、明日は凄い音が出る…凄い音が出るぞーっ！」と叫んでいました。

次の日演奏会を終えた辺りで、結果

が気になったので試しにどうだったかと電話してみた。あ、凄まじい音がでたよ。前の列の人が何人も涙しているのがみえたよ」と言っていました。それを聞いて「そうか、動機はともあれ、技術と訴えかける感情量が半端じゃなければ聴き手は感動して涙するんだ！」と驚いたのを今でも鮮明に覚えています。

で、僕はどうかと言うと、結論としては「なんも考えてない」。語弊がないように言いますが、一応考えようとはしています（女の子の事かどうかは秘密）。そう言うと、本当かどうか非常に怪しく聞かえますが、一応考えようとはしています。

正確には、「調子が抜群に良い時に振り返ると頭では何も考えていない」。コード変わる——肩甲骨の意識——タッピングを合わせた時に一番大切なのはその前の切り際——呼吸の速さがこのくらいってことは——跳躍——半音きつめ——

普段はこのような事が目まぐるしく、カメラのフィルムのように断続的

に浮かんで消えています。が、本当に音楽に没頭して音楽の一部になれているような時は、まるでその世界を投影する映写機にでもなっているような感じで、心が勝手に導いてくれるので、色々考えなくてもうまくいきます。

そんな時が一年に数回でもあれば儲けものです。もしかしたら、そう思っているのも思いがりで、まだ音楽そのものになるような感覚は経験してないのかもしれませんが。死ぬまでには一度くらい、本当に音楽の神様が微笑んでくれるのを経験してみたいですね。



## profile

2010年3月に桐朋学園大学音楽学部大学院を修了。  
2ヴァイオリンとピアノのアンサンブル・ユニット「TSUKEMEN」のヴァイオリニストでリーダー。  
2010年キングレコードからメジャーデビュー。  
結成9年目にして450本以上の公演を海外や日本全国各地で開催、現在までにのべ35万人を動員している。